

## イギリスの地理教科書

上越教育大学・学校教育学部助教授 志村 喬

## 1. 「地理学の国」の地理教育

地理学が社会的に活躍しているイギリスは、「地理学の国」と日本で称されることもある。地理教育をみても、イングランドでは地理科と歴史科が独立教科として社会科教育を担っており、「地理教育の国」ともいえる。では、そこでの地理教育とはどんなものなのか、カリキュラムと教科書を通して紹介したい。

## 2. イングランドの教育制度と地理科

連合王国であるイギリスの教育は分権的であり、構成地域ごとに制度が異なるのみならず、学校種別による違いも大きい。本稿ではイングランドの公立学校を対象とする。

イングランドの義務教育である5歳から16歳までの期間中、14歳まで地理科は必修、15～16歳の期間は歴史科とともに選択教科になっている。義務教育修了資格として一般にみなされるのは学校の卒業ではなく、学校外の試験機関が実施するGCSE（中等教育修了一般資格）試験での各教科の成績であり、どの教科でどの位の成績を取ったかが学歴として重視される。生徒は、進路に応じて数科目を受験するが、地理は多くの受験者を集める人気教科である。

## 3. 環境を総合的に学び、持続可能な世界をめざす地理カリキュラム

イングランドの学習指導要領にあたる現行版「ナショナル・カリキュラム地理」は、地理を自然と人間からなる世界への問いかけとその答えをもたらす重要な教科だとし、地理学習が目標とする次のような4つの学力を示している。

①地理的に事象を探究し、問題を解決する技能、②さまざまな場所に関する知識と理解、③自然地理的・人文地理的な事象の分布とそれが生ずる理由に関する知識と理解、④環境の変化と持続可能な開発に関する知識・理解である。そして、これが効果的に育成されるために、具体的な学習対象が選択されるべきとの姿勢を明確に示している。ここで重視されているのは、自然・人間・社会・空間の観点から場所について探究する能力の育成および探究の結果として身につけられる概念的な知識・理解であり、事實的・網羅的な地誌的知識ではない。

## 4. ツーリズムを扱った地理教科書の例

イングランドでは教科書の使用義務がなく学校所有が多いため、教科書といっても日本の副教材的位置づけである。ここでは、中等教育で広く使用されている地理教科書「キー・ジオグラフィー」シリーズの中で、日本の中学3年生から高校1年向けの一冊（Waugh and Bushell, 2002）を取り上げる。この教科書は、A4判約300ページ、全ページカラー印刷で、写真・模式図などが豊富に使用されている。全20章は、自然地理・人文地理を基礎にした系統地理型の単元構成で、自然地理が半分近くを占めている。人文地理分野では、人口、集落と都市の発達、発展途上国における都市化、就業構造、農業、工業、ツーリズム、資源の管理、貿易、開発といった構成である。

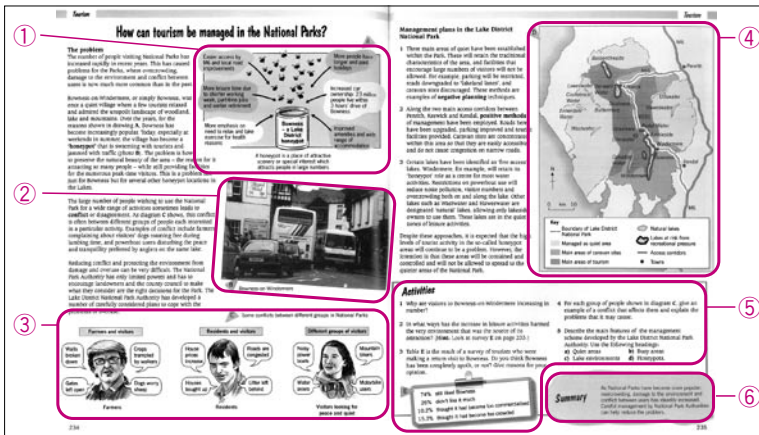
ここで注意されるのは、第3次産業分野としてツーリズム（観光）が取り上げられていることである。単元「ツーリズム」では、ツーリズムの世界的動向を理解させたのち、英国の国立公園、ギリシャの海浜リゾート、ネパールにおけるヒマラ

表1 『GCSEへのキー・ジオグラフィー』(2002)の単元「ツーリズム」の構成

	小単元名	おもな学習内容
1	ツーリズム産業とは?	世界的な観光客流動の実態、観光地の自然的・人文的魅力
2	英国の国立公園とは?	英国の国立公園の分布・役割、湖水地方の国立公園と観光客
3	国立公園はどのように管理されているか?	湖水地方の観光地の混雑問題、湖水地方の公園管理策
4	海浜リゾートーギリシャのトローのようす	地中海沿岸の半農半漁村の観光地化と生じた問題
5	山岳地域での休暇ーネパール	ポーターを雇うヒマラヤトレッキング客の増加とその功罪
6	ツーリズムは環境をどのように変えるか?	ケニアの海岸地域での観光開発による環境変化と保護・復元
7	エコツーリズムとは?	ケニアにおける持続可能なツーリズムへの取り組み

Waugh, D and Bushell, T. (2002) *New Key Geography for GCSE* より志村作成

図1



ヤのトレッキング、ケニアの海岸地域が、4つの事例として取り上げられる(表1)。この事例の取り上げ方は、経済発展段階の異なる国々を、地域的バランスおよび英国との関係を考慮しながら選択した結果と考えられる。

図1は、2ページからなる小項目「3 国立公園はどのように管理されているか?」を示している。本教科書は全単元が見開2ページ完結するように編集され、最後に生徒への作業指示であるアクティビティ(5)と、まとめ(6)がある。このアクティビティを参考にしながら授業を展開すると次のようになる。

- ・事例としている湖水地方に多くの観光客が集まる理由を模式図(1)を使いながら理解する。
- ・湖水地方内の集落に観光客が集まった結果、生じている問題を景観写真(2)の読み取りや、農民・居住者・観光客のそれぞれ異なる意見(3)から考える。
- ・問題解決のために国立公園でなされている対策を、公園管理区域図(4)を使って検討する。ここで注目されるのは、意見が対立する人々を

登場させ、立場・価値観の相違から対立する理由を考えさせることである。このリアルな場面を設定することで、続く国立公園の管理政策への生徒の取り組み、ひいては思考の深まりを促し、問題解決の市民的資質育成をはかっているのである。

### 5. 学習評価の方法

紹介したような探究的・問題解決的学習方法に魅力を感じる一方、評価について心配になる教師は多いであろう。実は、

取り上げた教科書はGCSE対応を謳っている。これには、試験評価方法が日本と異なるといった背景がある。GCSE試験には、問題解決型、系統地理型、地誌型と多くの問題類型があり、受験者はそのなかの1つの類型を選んで受験する。実際のペーパー試験では多くの資料を使用した論述解答が求められるのに加え、フィールドワークにもとづく提出物も加味されるのである。

### 6. 地理人気の秘密

この教科書のように英国の地理教育は、自然と人間社会の関係からなる環境への地理的探究を通して身につけられる知識・理解および意思決定を含む幅広い技能を重視していること、「持続可能な開発のための教育」での地理の役割を明確にしていることが特徴であり、それらを通して市民的資質の育成をめざしている。ここに地理の人気の秘密があるようである。

参考文献 志村喬(2003)「イギリス地理教育の動向と課題」村山祐司編『21世紀の地理-新しい地理教育』朝倉書店 pp.145-160